

早稲田大学 政治経済学部 国際政治経済学科

政治経済学部は政治学科、経済学科、国際政治経済学科の3学科を設置。国際政治経済学科は政治学と経済学、公共哲学を三位一体の科目として履修するところに特徴があり、多様な社会問題を発見・分析する基盤を養います。



■大学生
大江悠介 さん



■先生
久米郁男 先生



■卒業生
飯塚真代 さん

CONTENTS

- プロフィール
- 大学生活について
- 就職活動、仕事について
- 5年後に向けて
- 高校生へのアドバイス

●プロフィール

政治経済学部において、国際政治経済学科とはどのような位置づけですか。



■先生

国際政治経済学科は2004年に創設された比較的新しい学科です。新設された背景には、もちろんグローバルな視点に立った政治経済の知見を持つ人材育成が世の中から求められていることが大きいですが、今まで政治学科と経済学科の研究領域があまり融合されていなかったんですね。政治学も経済学もまとめて考えてこそ、国境を越えた政治経済問題に対する新たな視座が身に着くのではないかという

のが新設の大きな目的。また、国際政治経済学科は1・2年次での必修科目が多いのも特徴で、とにかく基礎を徹底的に学んでからゼミで専門分野の学びを進めていくことになります。“積み上げ型カリキュラム”というのかな、良くできたカリキュラム構成は日本でもトップクラスだと思いますよ。

■大学生

3年次でゼミを選ぶとき、所定の単位を修得していないから好きなゼミを専攻できないことがありますが、国際政治経済学科の学生は数多い必修で基礎を固めるので、ゼミを専攻する自由度が高いですよ。

がんばった分、選択肢が広いわけですね。では、先生のご専門分野、あるいは研究テーマについて教えてください。



■先生

ここ10年くらいのテーマは「貿易と政治」についてです。たとえば昨年、米国大統領選挙でドナルド・トランプ氏が当選したのは記憶に新しいですが、TPP（環太平洋パートナーシップ協定）の発効が危ぶまれる状況となり、トランプ大統領は一貫して自由貿易に反対の立場をとっています。激論を繰り広げていく過程でどのように決まって

いくのか、利害関係を含め各国の経済政策など全体の仕組みというのを軸に研究しています。

ただ、私自身は“研究”と“教育”は分けて考えていて、授業でその話しをすることもあるけど、学生に理解してほしいのはテーマの中身というよりどちらかという考え方です。私の研究自体、様々なエビデンスに基づいて貿易への人々の態度を分析していますが、何かの結論を導き出すときのアプローチの仕方や方法論を講義では教えています。

■卒業生

たしかに久米先生の授業は、教科書に書いてある政治学的内容を、実際に考えて体感するというユニークなものが多かったです。たとえば経済学用語「フリーライダー」[タダ乗り（活動に必要なコストを負担せず利益だけを受ける者）]を学んだとき、先生は「テストの裏に（当時開催された）大相撲春場所の優勝力士の名前を書けば点数が+10%です、ただし書いた人が100人を超えたら無効になります」と。そのとき、教室には100人も学生がいなかったんで、その教室に来ていない人がタダ乗りするかが考えどころになります。

■先生

たまたま休んだ人に教えてあげればその人に感謝されて個人の利益を獲得できるわけですね。そこでどうしますかという話し。このときも結局は100人超えてしまって無効になりました。過去10年程続けていて1度くらいしか成立していないんじゃないかな。考え方を体感して学んでもらうためのひとつの手法です。

大江さんも久米先生の授業をとられていますね。

■大学生

はい。1年次に先生の必修科目があって、とてもおもしろかったのでゼミも専攻しました。おもしろいと思ったのは、授業内容もそうですが授業の進め方。先生は教室を縦横無尽に移動しつつ学生と活発に意見交換しながら教えてくださいます。講義っていう学生からすれば受け身のスタイルでないところが印象的でした。

■先生

私はアメリカの大学に留学していたんですが、アメリカでは教師と生徒が対話しながら進めていく授業スタイルが比較的多いのです。それを真似て実践しています。

■大学生

だから、より国際政治が身近に感じられて……まだ漠然としていますが私、学生団体を作ろうかなと考えているんです。アメリカの政治や社会問題についてコメディを交えながら配信しているYoutubeチャンネルがあるんですけど、政治への関心が低い日本の若者向けにそういうものを作ったら、少しは変わるのではないかなと思ってまして。

■先生

国際政治経済学科の学生には、政治家希望というのもあるけど、自分が軸になって情報発信したいとか、マスメディアを希望する人たちも多いですね。

飯塚さんもマスコミで仕事をされています。

■卒業生

日本テレビ放送網株式会社（以下、日本テレビ）の報道局社会部で司法記者クラブに所属しています。ですから裁判や経済事件の取材担当が主になります。記者になりたいという夢は漠然と高校生のときからありましたが、やはり大学で受けた様々な授業の影響で夢が明確になっていったという感じですね。今は司法担当ですけど、その前はそれこそ米国大統領選挙の取材なども担当していたので、まさに国際政治経済学科で得た知識も経験も活かされることが多々ありました。

●大学生活について

記者になりたいという夢が漠然と高校生のときからあったという飯塚さんですが、なぜ早稲田大学政治経済学部の国際政治経済学科に入学したいと思ったのですか。

■卒業生

高校生のときに留学を経験して、国際的な仕事やジャーナリズムに興味を持ったのがきっかけです。その学びを深めたいと思ったとき、国際政治経済学科が近いのかと。また、当時、国際政治経済学科が新設されたばかりで、新たな学問に触れられるのではというところも魅力でした。私は国際政治経済学科の4期生だったんです。

■大学生

私も同じですが、やっぱり学科内でも圧倒的にグローバルな視点に関心の高い人が多いですね。

国際政治経済学科の特徴的な学びや授業はどのようなものがあるのでしょうか。

■卒業生

先程も話に出ましたが必修科目が多いこと。政治思想からミクロ・マクロ経済学、ゲーム理論など政治と経済の関係を理解するための基礎をまんべんなく学べるのは国際政治経済学科ならではの気がします。

■大学生

国際政治経済学科って大変そうだねって他の学科の人からよく言われます。また、数学的な要素もかなり必要なので、受験科目に数学を入れていなかった人は入ってから努力が必要かも知れません。でもそういう学生向けに大学側が数学支援室を設けてくれて、数学が苦手な私もずいぶん助かりました。

■先生

やはり私大の文系ですから、受験科目に数学を選択していない学生が多いので、そのフォロー体制はしっかりしないといけないだろうと大学としては考えています。数学支援室は大学院生を助手として集めて数学のわからないところを教えてくれるシステムで、通常の授業とは違います。

■卒業生

いいですね。私の在学中はそういうシステムはなかったので、試験前は学科内でとにかく助け合いの精神でした。学科内にズバ抜けて数学ができる人がいて、わからないところを講義してもらったりしていました。厳しいことを一緒に乗り越えるという意味では、学科内の結束力や信頼感はとても強かったです。

必修科目を終えた上で、3・4年次で特徴的な授業という、どういうものになるのですか。

■先生

基礎を積んだ上で政治学・経済学の総合的な考え方を養っていきます。たとえば選挙を例に挙げると、有権者がどのような政策を提示している候補者に投票しようか考えたとき、当然有権者はその政策によって得られる利益を考えます。その関係性の仕組みや、さらに候補者どうしがどうお互いの戦略を読み合って自分のスタンスを決めるか等を分析していく、つまり人間の行動と政治や経済の関係を理解していくためには従来の政治学だけでは足りないのも、もっと幅広い政治学・経済学を学ぶ授業が展開されていきます。そこではじめて、複雑な社会現象を自分の視角で捉えられる道が拓けてくると考えています。

飯塚さんは、現在の仕事に活かされていると思う授業はありましたか。

■卒業生

特に久米先生の授業を通して、リサーチクエストンに対してどう答えを導いていくのかを学べたことは役に立っています。たとえば米国大統領選挙のとき、大手メディアでは圧倒的にヒラリー・クリントン氏が優勢と言われていましたが、取材を重ねるうちにトランプ氏の支持者は自分から表に出ないということがわかったのです。そこで、大統領選挙の前に“隠れトランプ支持者”をフォーカスした短いVTRを制作しました。結果は予想を覆してトランプ氏の勝利。このように、提示されている課題に対して具体的な問いを持つてみるというのは先生の授業の賜物かなという気がします。

■先生

現実に行われていることに対して疑ってかかるということがスタートなので。本当かもしれないけど嘘かもしれない、そこを識別する方法を学ぶということですね。

■大学生

私はまだ学生なので仕事レベルでは実感できませんが、日々の生活の中でも当てはめることができます。先日、ある講演会で、パネラーの方が「高齢者でも働いている方はみんな元気です」って話していたんですよ。だから皆さんも働きましょう、と。それを聞いて、以前の私だったら納得していたと思いますが、久米先生の授業を受けている今では「働いているから元気なのか、そもそも元気だから働いているのか」という見方も生まれてくる。日常の身近なところでも問題を見抜く志向は鍛えられていると思います。

大江さんは今、大学生活で関心があることといえば？

■大学生

大学の交換留学プログラム「Exchange Programs（エクスチェンジ プログラム）」を利用して、もうすぐアメリカのボストンカレッジに留学します。向こうでは政治学に絞らず社会学や音楽、パブリックスピーキングなど幅広く一般教養を身に着けるつもりなので、今から楽しみです。

■先生

早稲田大学は留学プログラムが非常に充実していて、現在400校近い海外協定校と連携しています。本学の学位と留学先大学の学位を両方取得できるダブルディグリーカリキュラムをはじめ、政治経済学部内の留学プログラムもあるので、選択肢は広いです。語学力がつき、異文化に触れながら経験値を高めることができますから、留学はとてすばらしいと思いますよ。国際政治経済学科の学生は、やはり留学を希望する人が多いので、



大学側も学期の区切りを世界標準に合わせて前期と後期に2分割にしたり、秋入学の導入や成績面の評価等、留学しやすい環境を作り上げているところです。

●就職活動、仕事について

マスコミは人気職だと思いますが、就職活動はどのようにされましたか。



■卒業生

実は私も1年間、フランスのパリ政治学院に留学していて帰国したのは4年次の後期。つまり、日本の大学生がもっとも就職活動に力を入れている期間に日本を離れているわけですから、就職活動という観点で見るとちょっと特殊な状況でした。気持ちが落ち着いた頃に選考の早い外資系企業なども受けてみましたが、記者の仕事がやりたいという気持ちはずっとあったので日本テレビへの就職を決めました。

留学経験があるというのは、就職活動をする上でもプラスになるのでしょうか。

■卒業生

それだけでプラスになるということではなく、特に留学経験者を積極的に採用している企業であれば尚更です。要は何を得たのかに尽きると思っていて、語学力や異文化経験を通して起きた自分自身の変化について上手にアピールできれば企業も評価してくださるのではないのでしょうか。

念願のマスコミ業界で働いている状況ですが、仕事でやりがいを感じるのはどんなときですか。

■卒業生

テレビというメディアは幅広い人たちにリーチできるのが大きな強みだと思います。自分が取材して伝えたいと思った内容を、昼間や夕方時間帯なら主婦や高齢者に、夜の時間帯なら働いている方たちに見ていただけるのは大きなやりがいに繋がります。社会部の記者として警視庁へ出入りしたり、事件の被害者にお会いしたりして私自身も本当に許せないと感じることが多く、たとえば振り込め詐欺といった、正規職に就けずアルバイト感覚で詐欺に加担しているような若者の実情を目の当たりにすると日本の社会的構造の歪みにも考えが及びます。実際に振り込め詐欺の被害に遭われた方にも取材させていただいたのですが、そこから防ぐ方法はどうしたらいいか、ご家族や相談できる人は周りに居るかといった点を深掘して夜の時間帯のニュースで流すことで、若い世代だけでなく親世代にもリーチできる。幅広い層に日本が今、抱えている問題を提起できるのがいいと思います。

もう1つ、様々な時代の動きを現場で、しかも最前線で見守ることができるという点も私の人生にとってとても貴重な体験になっています。それこそ米国大統領トランプ氏誕生の歴史的瞬間を映像を通して伝えられたことは仕事の醍醐味と感じました。

充実した日々を送られていることがわかるエピソードですね。同じマスコミ業界で国際政治経済学科を卒業した人は知っていますか？

■卒業生

同期だとNHKや読売新聞など、何人かいます。こういう仕事をしていると、取材先など意外な場所で会ったりして「あれ？」なんていうこともよくあります。

● 5年後に向けて

先生が続けられている研究の今後のビジョンを教えてください。

■先生

「貿易と政治」のテーマは、経済的な利益に焦点を当てた分析を引き続きおこなっていきます。ただし、目に見えやすい数値的なことだけでなくそこに人間の心理面も付加させることが必要で、貿易に反対する人たちは何も利益のためだけに議論しているわけではありません。そのためにはヒトの心理メカニズムを研究している進化心理学の成果なども盛り込んで、あと4～5年かけて説明できるようにしていきたいですね。



あともう1つ、長期スパンで考えているのは江戸幕藩体制のもとでの政治改革について……。

■大学生

また急な話ですね！

■先生

老後の楽しみに。長い歴史の中でヨーロッパとイスラム諸国の政治は発展してきましたが、それぞれの特徴的な政治体制を統計学的に比較している研究がすでにあるんですね。それと同じ研究が江戸幕藩体制でもできるのではないかと。江戸幕藩体制下では緊縮財政で大きなリストラが敢行されたり、財政問題でお家騒動がたびたび起こっていたのでそれらを統計学的に分析して各藩の財政事情と藩政改革などの関係を新しい方法で解明していければというのが次の研究テーマです。ひとまず今は各藩主の生い立ちをデータベース化し始めたので、ゆくゆくは学会発表や書籍にまとめるのが目標でしょうか。

お手元に先生の書籍『原因を推論する』（有斐閣）もありますが、精力的に執筆活動もされているのですね。大江さんは読まれましたか？

■大学生

もちろん読みましたけど、読んだのが2年次だったのもっと早く読めば良かったと後悔しています。この本は政治学の本ではありますが、世の中の様々な物事が因果関係の上に成り立っていて、その原因と結果の関係を突き止める方法論のようなものが検討されています。別に国際政治経済学科だからとかではなく、どんな学問をする上でも大事な要素が入っていると思うし、大学の他の教授も「この本読むといいよ」って推薦していますよ。

大江さんは、5年後は何か考えていることはありますか。

■大学生

先ほど学生団体を作るような話をしましたが、私は父方の祖母が広島の実験被爆者で、自分自身も母子家庭で生まれ育ったこともあり、社会的にマイノリティな人や弱者とされる人々への関心が強いと思います。社会的に不利な立場にある人々のために既得権益と闘っていく、その先頭に立てる人物になりたいです。

■先生

ゼミのOBでも、最初は民間企業に入社して学費を貯めて開発系の大学に入学し直し、その後に社会を良くするために社会活動を目指す、という進み方をしている人もいます。あるいはNPO団体

を渡り歩いたり、最近では自然災害が多発しているので震災の被災地でボランティア活動をしたり。社会貢献の意識を持ってがんばる人が多いのも国際政治経済学科の特徴かもしれません。

■大学生

まだ机上の空論ではありますが、友達どうしてもそういう話しをします。どんな形でも社会貢献したい、世界を変えたいという仲間はたくさんいますよ。

そういう意味では、飯塚さんが携わっていることも社会を変えていくことに繋がる仕事ですよね。今後のステップアップはどのように考えていますか。

■卒業生

フランスに留学していたとき、「これは日本人も知っておいたほうがいいな」と思う現地のニュースがほとんど日本語では報じられておらず、残念に思っていました。ですから日本テレビに就職したとき、いずれ自分が海外のニュースを日本で伝える仕事がしたいという大きな目標ができました。それと同時に、日本のニュースを海外で報道するというのもやりたいことの1つです。日本のコンテンツを海外に向けて発信することについて日本は意外と遅れていると感じています。日本テレビにも海外支局はたくさんあるので、特派員として現地で働くことができればうれしいです。

●高校生へのアドバイス

高校生は、よほど明確な目標がない限り進路を迷ってしまうと思います。大学はどのような基準で選びましたか。

■卒業生

私は留学経験と記者になりたいという目標があったからAO入試1本に絞っていました。1つ言えることは、大学は自分が何かしら興味あるものを学べる場所に決めたほうが良いということ。4年間はそれなりに長いので、そのほうが何事も前向きに取り組めると思うんです。でも高校卒業時にまだ何も掴めていない、そんな状況でも大学は広いですし、学部を超えてたくさんのことを吸収できる機会を与えてくれるところです。まずは視野を狭めないでいろいろなことに挑戦したほうがいいですね。

■大学生

私も留学から帰国して7月から本格的に大学入試に向けて準備を始めたので、他の学生と比べるとだいぶ遅かったんですけど……当たり前かもしれないですが受ける学部の情報はしっかり押さえておいたほうが良いと思います。というのも、僕は国際政治経済学科が、こんなに数学を必要とする学部だなんて知らなかったし、その他にも法学部や商学部も受けていたけど商学部って何を勉強するか知りませんでした。また、私の友達で他学部に入学生がいますが、違う学部にしておけば良かったって今更後悔しています。勉強が大変で留学のタイミングをどうしようなど、いろいろあるみたいです。

つまり、目標がボヤッしていると偏差値で大学を選びがちになりますが、それは危険だということ。親や周囲の意見もあるかもしれませんが、焦らず自分の本当にやりたいことに向き合ってじっくり考えたほうが良いと思います。



国際政治経済学科に関心のある高校生は、何か準備をしておいたほうがいいことはありますか？



■先生

最低限の数学は押さえておいたほうがいいかもしれませんね。そこまで高い学力を必要とするわけではないですが。

■卒業生

せめて数字に抵抗感がないように、くらいでしょうか。

■先生

早稲田の政治経済学部なのだから政治経済を勉強しておこう！などと固く考えず、まずは基本的な英語・数学・国語をしっかり学ぶべきでしょう。それに、数学に関しては先ほど話しにも出ていた数学支援室などサポート体制もあるので、やる気があれば挽回できます。

受験勉強をする上で自分なりの工夫したポイントがありましたか。

■大学生

私は予備校には通っていませんでしたが、自宅近くのカフェで受験勉強すると決めていました。家にいるとマンガを読んだりダラダラしてしまうので、そのカフェに行くと自然にスイッチが切り替わるようになって、一種のマインドコントロールみたいなものですね。あと、太腿など大きい筋肉を動かすと脳内物質が出る、みたいなことを聞いたので、身体をちょっと動かしながら世界史の一問一答用語集を解いていました。このやり方がいいというわけではないですが、適度な気分転換は必要だと思います。

■卒業生

私も実は、勉強はZ会の渋谷教室と決めていました。私は、留学で高校2年生分の授業を受けていなかったため、遅れを取り戻そうと集中して勉強しました。

高校生で得られる学びと大学で得る学びの一番の違いを、先生はどうお考えですか。

■先生

数学や語学は正解があるが、それ以外の学びは正解があるわけではない。それが一番大きな違いではないでしょうか。“この解答がこの程度の確率で一番正しそうだけどこっちも正しそうで、それを判断しているエビデンスがこれ”という提示の仕方ですから、一体どれが正しいの？と白黒つけなくなってしまうかもしれませんが、それは違います。「曖昧さに耐える知性」みたいなところですかね、カッコ良く言うと。

では最後に、改めて国際政治経済学科の魅力を教えてください。

■大学生

“国際”という名前が付いているからか、男女比でみると女子が多いですね。とても良い雰囲気です。

■卒業生

女子にとっても居心地がいいかも。活発な人が多いから学科内が明るいです。

■先生

国際政治経済学科を含め、政治経済学部は非常に多様性があり、地方出身者の学生はもちろん様々な国籍の学生など個性が豊かで、そういう学生たちとの出会いは大きいと思います。国際政治経済学科のゼミのOBを見ても多種多様な職業に就いている人が多く、スポーツカメラマンとか、中に

は大使公邸のシェフになった人もいます。あらゆる可能性を持った人が集って互いに刺激し合う、それが政治経済学部のカンパスではないでしょうか。

■大学生

あと、政治経済学部という括りだと EDESSA（英語学位プログラム）も特徴的ですね。

■先生

2010 年から開始している英語学位プログラムで、留学生の受け入れはもちろん政治経済学部の全学科から希望者を募って英語だけで授業を進めるプログラムです。日本語が話せなくても優秀であれば教員としてアメリカやヨーロッパなどの大学から招いていますし、こういう多様性は本学部のメリットの 1 つですね。今ではキャンパス内を歩いていると日常的に英語が耳に入ってくるようになり、国際政治経済学科の新設を皮切りに早稲田大学は本当に変わってきたと思います。

●インタビューに答えていただいた方々●



■先生

久米郁男先生

早稲田大学政治経済学部国際政治経済学科教授

滋賀県出身。京都大学法学部卒業、京都大学大学院法学研究科修士課程修了、コーネル大学大学院博士課程修了。その後、コーネル大学客員助教授、神戸大学大学院法学研究科教授等を経て現在に至る。専門分野は政治学・日本政治分析、担当科目は政治分析方法の基礎、政治分析入門。



■卒業生

飯塚真代さん

日本テレビ放送網株式会社 報道局社会部所属

筑波大学附属高等学校出身。Z 会渋谷校の夏期講習を利用し早稲田大学政治経済学部国際政治経済学科に合格。卒業後は日本テレビ放送網に就職し、NEWS ZERO のディレクターとして 2016 年米国大統領選挙の取材などを担当した。その後、社会部の司法担当へ異動、様々な事件や社会問題に向き合う記者として活躍中。将来は海外支社の海外支局で働くのが夢。



■大学生

大江悠介さん

早稲田大学政治経済学部国際政治経済学科 2 年生（2016 年度取材当時）

私立公文国際学園高等部出身。高校時代はハンドボール部に所属し、週 5 ～ 6 日活動。また、公益財団法人 AFS 日本協会の留学プログラムを利用してフランスのマルセイユに 1 年間留学するなど充実した日々を送った。留学経験から国際的な視野が広がり、国際政治経済学科へと進学。苦手な数学を克服しつつ、膨大な必修科目をこなしながら語学にも磨きをかけている。2017 年 9 月から 10 ヶ月間、留学プログラム「Exchange Programs (EX)」を利用してアメリカ・ボストンカレッジに留学予定。